

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	142800021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成18年9月1日
法人名	ALSOK介護株式		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東		
所在地	(224-0006)		
	神奈川県横浜市都筑区荏田東4-14-12		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年11月11日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍で途絶えていた地域との交流を行う準備期間を経て、今年度はボッチャ大会や健康チェック会を開催。近隣の住民の方々や連合自治会長初め、区役所の高齢福祉課の方のお力添えで賑やかに開催できた前半を過ぎました。ボランティアの方からも声掛けを頂き、アカペラコーラスやチェロの演奏会も開催。日頃マッサージで来所している施術師の切り絵など、ぜひやらせて下さいとの声を頂く事ができました。ご利用者様のご家族の民謡と三味線の演奏を次の予定に組んでいます。従来の畑レクやガーデンでのあ花作りも暑すぎた夏で不作でしたが、次のシーズンへ向けて準備中です

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月16日	評価機関 評価決定日	令和8年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は横浜市営地下鉄ブルーライン「センター南」駅から徒歩15分ほどの場所にあり、近隣には緑豊かな公園や散歩道があります。木造2階建て2ユニット18人定員のグループホームです。

<優れている点>

職員の特技や関心を活かしたレクリエーションを積極的に取り入れ、主体的に関わることで、利用者、家族、職員が共に楽しく生きるという理念を実践しています。利用者参加で行うパンやケーキ作り、庭での菜園、習字などの取り組みは家族や地域に定着しています。また、アカペラコーラスやチェロ演奏、切り絵、ドッグセラピー、ボッチャ大会など多くのボランティアを受け入れ、地域の人とのつながりを深めています。地域の小学生の訪問は、子供たちが利用者と直接関わることで認知症への理解を深める機会となっています。こうした活動はブログで発信し、日々の生活の様子を伝えることで家族の安心につながっています。

<工夫点>

管理者は利用者を人生の先輩として尊重し、「自分も役に立っている」という喜びを感じられるよう、共に暮らす仲間として対等な関係を築いています。また、職員に対しては意見が言いやすく、互いに協力し合える関係性を構築し、働きやすい環境作りに努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を共有して実践につなげています	職員自ら楽しむ企画を立案し、主体的に関わることで、利用者や家族が笑顔で過ごすことを大切にしたい理念を事業所全体で共有し、実践しています。職員の特技や関心を活かすことで、モチベーションの向上や多様なアイデアの創出につなげています。こうした取り組みを通じて、一人ひとりが理念を自分事として捉え、日々のケアに反映させるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には参加できる時には参加しています。施設内において地域の方、社協の方、役所関係の方と連携しポッチャ大会や健康チェック会を開催しました。多くの方に参加頂くことができました	地域に向けて意欲的に活動しています。老人会や社会福祉協議会の協力によりポッチャ大会を開催し、地域住民に事業所の存在を知ってもらう機会としています。利用者と地域からの参加者がチームに分かれて勝敗を競うことで、異世代交流やゲームの楽しさを共有しています。こうした取り組みを通じて、地域の一員として相互に顔の見える関係作りに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	健康チェック会の際に包括支援センターの方の協力でフレイル予防のお話しもして頂きました。日常生活や活動の様子はブログや掲示板を利用しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月の開催で出た意見などをサービス向上に活かしています	老人会や地域包括支援センター職員の参加を得て運営推進会議を開催し、事業所での生活の様子を伝えるとともに、地域の行事などの情報交換を行っています。会議でのつながりから、正月には近隣の子供たちによる手作りの年賀状が届くなど、地域との交流が深まっています。思いがけない便りに、利用者が笑顔を見せてくれる機会も多く、会議を起点とした温かな関係構築に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	報告書などで協力関係を築けるよう取り組んでいます	都筑区の担当者による紹介を受け、獅子舞の演舞を地域住民と一緒に見学するなど、季節の行事を通じて地域とのつながりを持っています。地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し、地域のイベントを事業所で開催することで、活動内容を広く伝えるとともに、互いに協力し合える関係を構築しています。こうした多機関とのネットワークを活かし、地域に開かれた運営に努めています。	チームオレンジでの活動を継続し、地域住民との交流を深めていくことが望まれます。専門的知見を還元し、地域における認知症理解を広める役割を担っていくプロセスに期待しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	不適切なケアにつながる懸念がある事案には、その場で対応を見直し、職員間で何でも話し合える関係性を築いています。特にトイレやリビングのテーブル、ベッドサイドに置く車いすの位置については、安全のみを重視した介護側の視点ではなく、利用者本位の自立支援を基本に据えています。本人の動きを制限することなく、持てる力を活かせるような環境設定や支援を実践しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修を行い、虐待防止に努めています。職員間でも話し合える環境を構築しています。	職員が無意識のうちに発している言葉遣いが、利用者の行動を制限し尊厳を傷つけていないか話し合いを行い、問題意識を高めています。特に夜勤帯は利用者の睡眠を妨げないよう、職員が声のトーンを落とすことを徹底しています。また、目につく場所に「やさしい声かけ」のポスターを掲示して注意喚起を行うなど、常に自身の言動を振り返り、虐待防止に努める環境を整えています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者個人の状態を把握し、職員も成年後見制度などを学び必要があった時に活用できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明をし、疑問点には誠意を込めてお答えしご理解を得ています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の開催を行うだけでなく、面会時を利用しご意見ご要望などを聞き取り、運営に反映しています	面会時に利用者の様子を伝える中で、家族から直接、希望や要望を聞き取っています。日々の生活の変化をありのままに伝え、こまめな状況報告を行うことで、家族との信頼関係を築いています。家族の顔を見たり声を聞いたりすることが本人の精神的な安心につながると考え、面会や電話を依頼するなど、家族と共に生活を支える体制作りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は職員会議や日常の会話から聞く機会を設け反映できるよう心がけています	管理者は職員と対等な関係を築き、互いに協力し合う「横の関係」を構築することで、ストレスを溜めない職場作りに努めています。レクリエーション活動の提案など、職員の主体的な意見を積極的に受け入れる体制を整えています。こうした風通しのよい環境が職員の意欲向上を促し、働きやすさと質の高い支援の提供につなげています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の希望を取り入れたシフト作成や向上心をもって取り組める環境の整備に努めています	管理者は全職員と半年ごとに面談を実施しています。職員自らが立てた個人目標の達成状況を共に振り返り、課題や今後の方向性について話し合う機会を設けています。職員一人ひとりが自身の役割を認識し、前向きな気持ちで意欲的に働くことができるよう環境を整えています。こうした対話を通じて、個々の成長を支援するとともに、風通しのよい職場作りに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの適正を考え法人内外の研修を受ける機会を確保できるようすすめています	新入職員や中途採用職員、排泄ケアなどの法人内研修には、勤務日程を調整して参加しています。介護度の高い利用者への支援や機械浴の使用方法については、経験豊富な職員がその場で実践して直接指導を行うことで、利用者や職員双方の身体的負担を軽減し、安全な介助技術の習得に努めています。こうした取り組みを通じて、リスク管理の徹底と、質の高いケアの統一に向けた体制を整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社外の同業者との交流は中々難しいですが、研修などで一緒になった他社様の意見や考えを聞くことでサービスの向上につなげられるよう取り組んでいます		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々のコミュニケーションで、安心を確保できる関係性の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始に当たり、ご家族様の不安や要望に耳を傾け関係作りができるよう心がけています。入居後も居室の担当をを配置し担当中心に関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の会話を通じたコミュニケーションで関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様のご意向も伺いながら、本人との絆を大切にしていけるための関係を築いている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人との面会や、親族の集まりなどへ出かけられるような取り組みで支援を行っています	家族の協力を得て、以前から通っていた美容院や馴染みの商店、自宅などへ出かけています。外出用の小型の車いすを準備し、家族とランチに出かけるなど、自由な外出を支援しています。また、家族の了解のもと、幼なじみや町内会の友人が事業所を来訪しています。こうした機会を通じて、入居前からの人間関係や地域とのつながりの継続を後押ししています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配置などを考え、孤立しないように努めています。利用者同士での会話やレクリエーションを通し仲間になれるよう支援をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後も相談や支援ができるよう努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を十分に聞き取り、プランに反映しています	入居時に丁寧なアセスメントを実施し、グループホームでの生活の中で楽しみを見出せるよう工夫しています。日々の暮らしにおいて、利用者が笑顔で過ごせることを大切にしています。また、人間関係などの支障が生じた場合には、席の配置を変更するなど状況に応じた柔軟な対応を行い、一人ひとりが穏やかに過ごせる環境を整えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービスの開始時だけでなく、日々生活の中からも今までの生活環境や馴染みの暮らしなどを聞き取り、ご家族様からも聞き取れるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の状態や有する力の現状を把握できるよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	医療関係者やご家族様など様々な意見やアイデアを反映し現状に即した計画を作成している	カンファレンスでの話し合いを通じて、内容を介護計画に反映しています。会議に直接参加できない夜勤専従職員やパート職員などの意見も反映できるように、カンファレンス用紙に職員一人ひとりが意見を記入できる欄を設けるなどの工夫をしています。全職員の視点を取り入れることで、多角的なモニタリングと計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化や様子を記録に残し、職員間で共有し計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われない柔軟な支援ができるようサービスの多機能化を模索しながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用し本人が豊かな暮らしを楽しめるような支援をしています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様の協力を得ながら、施設往診医だけでなく専門医など適切な医療が受けられるよう支援しています	24時間対応の医療機関と提携し、緊急時にも対応できる体制を整えています。訪問診療として内科を月2回、歯科を月2回、歯科衛生士を週1回受け入れています。また、週1回勤務する非常勤看護師が、訪問医との連携を図るとともに、バイタルチェックの確認や巻き爪の処置などを行っています。こうした多職種との連携体制により、日々の健康管理と早期対応を図っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の変化や様子、情報などを看護職員に伝え必要に応じた受診ができるよう細部に渡相談しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、早期退院につなげられるような関係づくりをしています。状況により退院後のマッサージなど相談できるよう支援しています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師や看護師との情報を共有し、事業所でできる事を話しあい、ご理解を得ながら終末期のケアに取り組んでいます	終末期には、家族が寄り添って過ごせるよう、付き添いが可能な環境を整えています。本人の状態に合わせ、食べたいものを食べられる量で提供するなど、最期までその人らしい生活を支えています。旅立ちの際には、感謝の気持ちを込めて「いってらっしゃいませ。ありがとうございました」と言葉をかけ、尊厳ある看取りを大切にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の実践力を身に付けるよう訓練を定期的な行っています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練をし、災害時には昼夜とわず対応が出来るよう地域との協力体制を築いている	災害時の地域との協力体制を構築しています。緊急時に職員が必要な初動を迷わず行えるよう、玄関の自動ドアのスイッチ操作やエレベーターの解錠手順などについて、会議を通じて職員へ知しています。有事の際、速やかに避難誘導や安全確保ができるよう、日頃から組織としての対応力を高めています。	発災時の負傷リスクを低減するため、居室内の備品や私物の配置における安全確保の見直しが望まれます。減災に向けた体制を段階的に構築していくプロセスに期待しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしています	排泄支援や入浴介助など、プライバシーに深く関わる場面では、利用者を人生の先輩として敬い、適切な言葉かけを行うよう心がけています。羞恥心への配慮はもちろんのこと、一人の人間としての尊厳を傷つけることのないよう、日々の介助を通じて、礼節を重んじた関わりを継続しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の希望が言える環境を作り、日常の細かい部分でも自己決定が出来るよう促し、働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にし、希望に沿った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お好みの衣類でオシャレが出来るような支援をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しめるよう、レクを通し食べたいメニューを企画し一緒に準備など行っています。日常の食事の片づけなども一緒に行っています	誕生日会などの機会には、利用者に食べたいものなどの希望を確認しています。希望を出すことが難しい利用者には、2つの候補を提示して利用者が選択できるよう工夫を凝らしています。これまでに寿司やケーキなどの希望があり、実現しています。また、利用者と職員と一緒に食器洗いやトイレ拭きなどを行い、日常の家事動作を通じて生活に楽しみや役割を持てるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲食の摂取量を把握し、個々の必要量の確保が出来るように努めています。偏食や摂取が困難な時はご家族とも共有し支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の方へは声掛けを行い、介助の必要な方へは歯科のアドバイスを受けながら口腔ケアを行っています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態を把握し、定時誘導などを適切に行いトイレでの排泄の自立に向けた支援をしています	排泄については、自立してトイレに向かう利用者と、定時での誘導を行う利用者の心身の状態に合わせた支援を組み合わせています。利用者が立ち上がり歩出す動作を「トイレに向かいたい」という意思表示として捉えるなど、一人ひとりの行動特性を把握した関わりを実践しています。こうした場面では「トイレはこちらですよ」と言葉をかけながら誘導を行い、排泄の自立に向けた継続的な支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や飲食の工夫を行い、下剤に頼らない排便につなげられるような支援をしています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の希望する時間を聞きながら、調整し楽しんで入浴できる環境の支援をしています	入浴は午前と午後に分け、1日2～3人の少人数で実施することで、一人ひとりがゆったりと過ごせる時間を確保しています。身体への負担に配慮し、体調に影響が出ないよう概ね30分以内での入浴を基本としています。また、しょうぶ湯やゆず湯などの季節を感じられる機会を設け、多くの利用者に喜ばれています。こうした取り組みを通じ、心身の充足感を得られる入浴の機会を提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	心身の状態に合わせて休息をとりながら、夜間の安眠につなげるような支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師や看護師と相談し、介護職員も薬剤を学び自己判断せず、確認を怠らない支援をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や力を活かした役割、し好み、楽しみ事などが張り合いや喜びにつながるような支援をしています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常ではお散歩レクで近隣へ出かけ四季の風を肌で感じられるような支援や地域行事へは参加できる時には参加する。遠出にはご家族様の協力でお出かけられるよう支援しています	日常的に近隣の緑道を散歩し、外気にあたって気分転換を図る機会を設けています。桜の時期には川沿いの桜並木を歩き、近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけることもあります。短時間であっても屋外で季節の移ろいを感じられるよう配慮し、地域社会とのつながりや生活の彩りを保てるよう働きかけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	直接金品の所持はしていませんが、本人の必要に応じ購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも可能としています。手紙は個々の能力に応じ、希望があればやり取りできるように支援します。ご家族からのお手紙は本人様にお渡ししています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物や装飾をに季節の物に変えたり、手に触れる物の出来る物を置いて居心地の良い居住空間になるよう工夫をしています	リビングなどの共用スペースでは、季節や行事の訪れを視覚的に感じられるよう、毎月壁面装飾を更新しています。装飾はレクリエーション担当の職員が中心となり、利用者とともに制作しています。掲示した作品を話題に会話が弾むなど、自ら制作したものが空間を彩る喜びを分かち合っています。こうした取り組みにより、四季折々の変化を楽しみながら、心地よく過ごせる環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座って気の合う利用者様同士で談笑したりされています。居室から見える庭の景色にも四季の花が見えるよう居心地の良い空間作りをしています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お体の状態に合わせてご家族様との連携の上、好みの写真や使い慣れた家具の設置をしています。	居室への私物の持ち込みは自由としており、一人ひとりの利用者や家族の好みに合わせた環境づくりを支援しています。使い慣れた家具の配置をはじめ、思い出の写真や季節の花などを飾ることで、それぞれの個性を尊重した空間となっています。入居後も本人にとって馴染みのあるものに囲まれ、自分の場所として安心してリラックスできる居室環境の提供に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすく出来ることはいつまでも出来るような物の配置に気を付けています。自立を援助できる工夫に心がけています		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜荏田東
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を共有して実践につなげています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には参加できる時には参加しています。施設内において地域の方、社協の方、役所関係の方と連携しボッチャ大会や健康チェック会を開催しました。多くの方に参加頂くことができました		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	健康チェック会の際に包括支援センターの方の協力でフレイル予防のお話しもして頂きました。日常生活や活動の様子はブログや掲示板を利用しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月の開催で出た意見などをサービス向上に活かしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	報告書などで協力関係を築けるよう取り組んでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修を行い、虐待防止に努めています。職員間でも話し合える環境を構築しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者個人の状態を把握し、職員も成年後見制度などを学び必要があった時に活用できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明をし、疑問点には誠意を込めてお答えしご理解を得ています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の開催を行うだけでなく、面会時を利用しご意見ご要望などを聞き取り、運営に反映しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は職員会議や日常の会話から聞く機会を設け反映できるよう心がけています		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の希望を取り入れたシフト作成や向上心をもって取り組める環境の整備に努めています		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの適正を考え法人内外の研修を受ける機会を確保できるようにすすめています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社外の同業者との交流は中々難しいですが、研修などで一緒になった他社様の意見や考えを聞くことでサービスの向上につなげられるよう取り組んでいます		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々のコミュニケーションで、安心を確保できる関係性の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始に当たり、ご家族様の不安や要望に耳を傾け関係作りができるよう心がけています。入居後も居室の担当をを配置し担当中心に関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の会話を通じたコミュニケーションで関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様のご意向も伺いながら、本人との絆を大切にしていくための関係を築いている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご友人との面会や、親族の集まりなどへ出かけられるような取り組みで支援を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配置などを考え、孤立しないように努めています。利用者同士での会話やレクリエーションを通し仲間になれるよう支援をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後も相談や支援ができるよう努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を十分に聞き取り、プランに反映しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービスの開始時だけでなく、日々生活の中からも今までの生活環境や馴染みの暮らしなどを聞き取り、ご家族様からも聞き取れるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の状態や有する力の現状を把握できるよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	医療関係者やご家族様など様々な意見やアイデアを反映し現状に即した計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化や様子を記録に残し、職員間で共有し計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われない柔軟な支援ができるようサービスの多機能化を模索しながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用し本人が豊かな暮らしを楽しめるような支援をしています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様の協力を得ながら、施設往診医だけでなく専門医など適切な医療が受けられるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の変化や様子、情報などを看護職員に伝え必要に応じた受診ができるよう細部に渡り相談しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、早期退院につなげられるような関係づくりをしています。状況により退院後のマッサージなど相談できるよう支援しています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師や看護師との情報を共有し、事業所でできる事を話しあい、ご理解を得ながら終末期のケアに取り組んでいます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の実践力を身に付けるよう訓練を定期的に行っています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練をし、災害時には昼夜とわらず対応が出来るよう地域との協力体制を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の希望が言える環境を作り、日常の細かい部分でも自己決定が出来るよう促し、働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にし、希望に沿った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お好みの衣類でオシャレが出来るような支援をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しめるよう、レクを通し食べたいメニューを企画し一緒に準備など行っています。日常の食事の片づけなども一緒に行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲食の摂取量を把握し、個々の必要量の確保が出来るように努めています。偏食や摂取が困難な時はご家族とも共有し支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の方へは声掛けを行い、介助が必要な方へは歯科のアドバイスを受けながら口腔ケアを行っています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態を把握し、定時誘導などを適切に行いトイレでの排泄の自立に向けた支援をしています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や飲食の工夫を行い、下剤に頼らない排便につなげられるような支援をしています		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の希望する時間を聞きながら、調整し楽しんで入浴できる環境の支援をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	心身の状態に合わせて休息をとりながら、夜間の安眠につなげるような支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師や看護師と相談し、介護職員も薬剤を学び自己判断せず、確認を怠らない支援をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事などが張り合いや喜びにつながるような支援をしています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常ではお散歩レクで近隣へ出かけ四季の風を肌で感じられるような支援や地域行事へは参加できる時には参加する。遠出にはご家族様の協力でお出かけられるよう支援しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	直接金品の所持はしていませんが、本人の必要に応じ購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも可能としています。手紙は個々の能力に応じ、希望があればやり取りできるよう支援します。ご家族からのお手紙は本人様にお渡ししています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物や装飾を季節の物に変えたり、手に触れる物の出来る物を置いて居心地の良い居住空間になるよう工夫をしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座って気の合う利用者様同士で談笑したりされています。居室から見える庭の景色にも四季の花が見えるよう居心地の良い空間作りをしています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お体の状態に合わせてご家族様との連携の上、好みの写真や使い慣れた家具の設置をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすく出来ることはいつまでも出来るような物の配置に気を付けています。自立を援助できる工夫に心がけています		

2025年度

事業所名 グループホームみんなの家・横浜荏田東
作成日：2026年 4月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	市町村との連携でチームオレンジにもかかわることができ、認知症の理解を地域の方へも広げられるようにする	地域と関わりを広め認知症の理解を広められるようにする	オレンジカフェの開催	1 2ヶ月
2	16	日々の業務に追われ計画が遅くなり、避難訓練などが自主訓練になってしまった	地域の方へ認知症の施設であることを浸透させる	地域の避難訓練への参加や、施設における避難訓練への参加の呼びかけ	1 2ヶ月